

神奈川医療情報システム研究会 設立趣意書

近年、医療を取り巻く情報技術の電子化は、中長期的な政策誘導を背景に浸透しより加速されております。平成 22 年 3 月には厚生労働省より、医療機関等における医療情報システムの構築・更新に際して、情報が必要時に利用可能であることを確保するため、「厚生労働省における保健医療情報分野の標準規格（厚生労働省標準規格）が定められ、必要に応じて改正されています。標準規格の採用は、地域医療連携や医療安全にも資するものであり、また、医療機関等において医療情報システムの標準化や相互運用性を確保していく上で必須と考えますので、今後より一層の採用が見込まれます。

放射線領域においても放射線情報システム（Radiology Information System ; RIS）や画像保管通信システム（Picture Archiving and Communication System ; PACS）を導入する施設が増加し、また CT 及び MRI 装置の普及・進歩により、日々大量の電子化された情報が発生しており、その管理の重要性が高まっております。また、これらの情報は自施設内での利用にとどまらず、他施設への患者紹介においても CD 等の可搬型媒体を用い利用されます。しかし、連携されるべくデータが参照できない、自施設の PACS にデータが取り込めない、取り込み時に多くの注意を要するといった新たな問題も顕在化しております。これらの問題解決には、医療機関同士が相互に問題点を把握し対応する必要があります。それには、現場で日々対応している人と人が情報共有し、相互連携による対話が不可欠と考えます。神奈川県内には、これまで医療情報に関して、共に学び情報を交換する機会がありませんでした。今後、神奈川医療情報システム研究会がこの任を担える場となればと考え、研究会を設立することといたしました。全国的には、日本医用画像情報専門技師会が発足し、活動を始めようとしております。本研究会はこの専門技師会とも連携をはかり、基礎的な知識から専門的な知識までを網羅することにより、医療情報に関する初歩的な学びから医用画像情報専門技師育成のサポートまで、広く対応していきたいと考えます。

平成 25 年 7 月 1 日

発起人

青木 陽介	大船中央病院
池添 万里子	帝京大学医学部附属溝口病院
梅田 徳男	北里大学
小畑 欣也	神奈川県立こども医療センター
神宮司 公二	北里大学病院
杉山 昌弘	横浜市立大学附属病院
新田 勝	昭和大学横浜市北部病院
早川 堅一	横浜市立大学附属市民総合医療センター